

## 高等学校における生徒の思考の活性化を促す

### 教科横断的な授業実践

峯 悦子（長崎県立佐世保西高等学校）

下村 香菜子（長崎県立佐世保西高等学校）

藤井 佑介（長崎大学大学院教育学研究科）

#### 1. 背景と目的

令和4年度から年次送りで実施される高等学校新学習指導要領では、育成を目指す資質・能力を明確化し、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱に再整理された。これまでの授業のあり方を振り返ると、目の前にある大学入試に向けて「知識・技能」を育むことに重きを置き、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力・人間性等」の育成については付随的なものとして、評価法も含め多くの時間を割いて考察することが少なかったという反省がある。

この学習指導要領改訂に向けて、これまで担当する教科内において、「思考力・判断力・表現力」、及び、「学びに向かう力・人間性等」を高めることに主眼を置いた授業実践は繰り返し実践し、考察してきた。その過程において教員間での対話をすすめるうちに、身につけさせたい力が1つの教科だけではなく、他の教科にも同様に当てはまるという発見に加え、それぞれの教科の特性を生かし同じ「問い」に向かうことで、身につけさせたい力の育成がより効果的に行えるのではないか、深化が図れるのではないかと考察するに至った。

本実践の目的は、国語科における評論文のより深い理解や古典の世界で描かれる情景の意味に関する理解を、国語科単独ではなくその専門となる科目（理科）とともに実施した場合にどのような効果をもたらすか、また理科では国語科で取り組んでいる文章読解の育成法を理科に用いることで、理科の問題文を的確に読み取る力をより高くすることが可能か、生徒の主体的な学びの喚起につながるかについて、理科と国語の教科横断型授業を計画・実践し、その成果と課題を検証することである。

#### 2. 教科横断型授業と育成したい力について

##### 2-1 教科横断型授業について

本実践においては、教科横断型授業とは、「教科や科目の枠を越えて一つの問に取り組むことを目的とした授業のこと」と定義し、理科と国語の教科横断型授業

を3つの単元において行った。

## 2-2 育成したい力

育成したい6つの力を、本実践ではそれぞれ以下のように定義した。

### ① 学びに向かう力

協調性、探究心、批判的に思考しようとする力、自己主張しようとする力、粘り強さの5つの総称。

### ② 多面的な思考

ひとつの問題に対して、多方面から物ごとを捉えた上で思考すること。

### ③ 批判的思考力（クリティカルシンキング）

あるものごとについて、「本当にそうか」と立ち止まって考える力。

### ④ 読解力

④-1 人の話を聞いて、主旨を理解する力。

④-2 文章を的確に読み取る力。

④-3 データを正しく読み取る力。

④-4 データから読み取った情報を解釈する力。

### ⑤ 記述する力

同趣旨・対比・因果の文章構造を的確に理解し、相手に伝わるように文章として表現する力。

### ⑥ 話す力

筋道を立てて、相手に伝わるように口頭で表現する力。

## 3. 生徒の実態

授業を実施したのは、長崎県立X高等学校1学年4学級160名の生徒に対してであるが、第一著者と第二著者が担当した学級は2学級で習熟度上位クラス及び、習熟度平均クラスである。入学当初における生徒の授業時の反応（学びに向かう力）は、習熟度間に大きな差はなく、控えめで全体の場で発言しようとする姿勢はほとんど見られなかった。読解力や、記述する力については、習熟度上位クラスの生徒が高いが、批判的思考力、多面的思考については全体的に弱く、他者の考えをそのまま受け止める生徒が多かった。そこで、意識的に対話したり全体の場で表現するような機会を増やすとともに、「正解のない問い」を深く思考して自分なり・グループ内なりの考えを持つような活動を取り入れた授業を展開しその意義を伝えることで、批判的思考力、多面的思考力の向上が図れるのではないかと考察した。その過程を通して、前述したその他の力の育成も図ることができると考えた。

#### 4. 授業実践の実際

- ① 古典作品の「月」と科学的分野の「月」との繋がりを考える（6月）
- ② 「教科書読解力」を高める（12月）
- ③ 「批判的思考力」を高める（3月）

##### ① 古典作品の「月」と科学的分野の「月」との繋がりを考える

古典作品の多くで、情景描写として「月」が出てくることが多い。また、古今和歌集などに代表される和歌にも多く詠まれるのが「月」であるが、特に大和物語「姨捨」は、主人公である「男」がおばを捨ててしまった後悔を掻き立てるような場面での描写が印象的である。このように、古典作品の中では「死」「悲しみ」「切なさ」を連想するものとしての描写が多いが、それは「科学的」見地から見る「月」との関連からくるものであるのか等を考えるきっかけとし、地学基礎としての知識・技能の習得に加え、思考力を深めるとともに、古典作品における心情や情景描写を味わうことからもたらされる「感性」の醸成を目的として、自由に発想させることを行った。2時間の単元構成で実施した（図1）。

授業デザイン（授業略案）	
★ 単元目標	
文学作品を記述に沿って読解し深く味わい、古来の人びとにとっての「月」の意味について考えを深めるとともに、科学的な側面においても他の惑星と比較して地球にとって「月」は特別な存在であることを理解する。 特別な存在である「月」に関心を抱き、他の文学作品や現代における人間と月の関わりについて知りたいという意欲を高める。	
各時間の目標と授業展開および教材	
展 開	1 「姨捨」を個人で黙読したのち、ペアであらすじを確認する。 2 内容をお互いに伝えあう過程の中で気になった部分を全体で共有する。 情景描写＝心情描写を踏まえ、気になる情景を指摘しあう。 3 分析をする （観察）月が数回描かれており、思い詰める先の象徴として表現されている。 （分析）登場人物にとっては月が特別なものである。 （解釈）人々にとって、月は特別なものであり、人は月から影響を受ける。 4 解釈をさらに分析する。（本当に？なぜ？） 5 持っている資料（便覧、教科書、図録）で調べ学習を行い、ロイロノートにまとめる。 Ex①他の文学作品、現代の歌の歌詞、映画など人について描かれている作品を読み解く。 ②科学的面から地球と月の関係性を探る。（他の惑星との比較） 6 文学と科学の関係性を踏まえた分類分け（分析）を行う。 7 ロイロノート（シンキングツール「キャンディチャート」）を提出。 8 スライド上で全体共有。（2、3班は説明を行う） 10. 「月」とは何か。自分の経験も踏まえ意見文を書く。（自由記述）
教	大和物語「姨捨」

図1. 2時間の授業デザイン

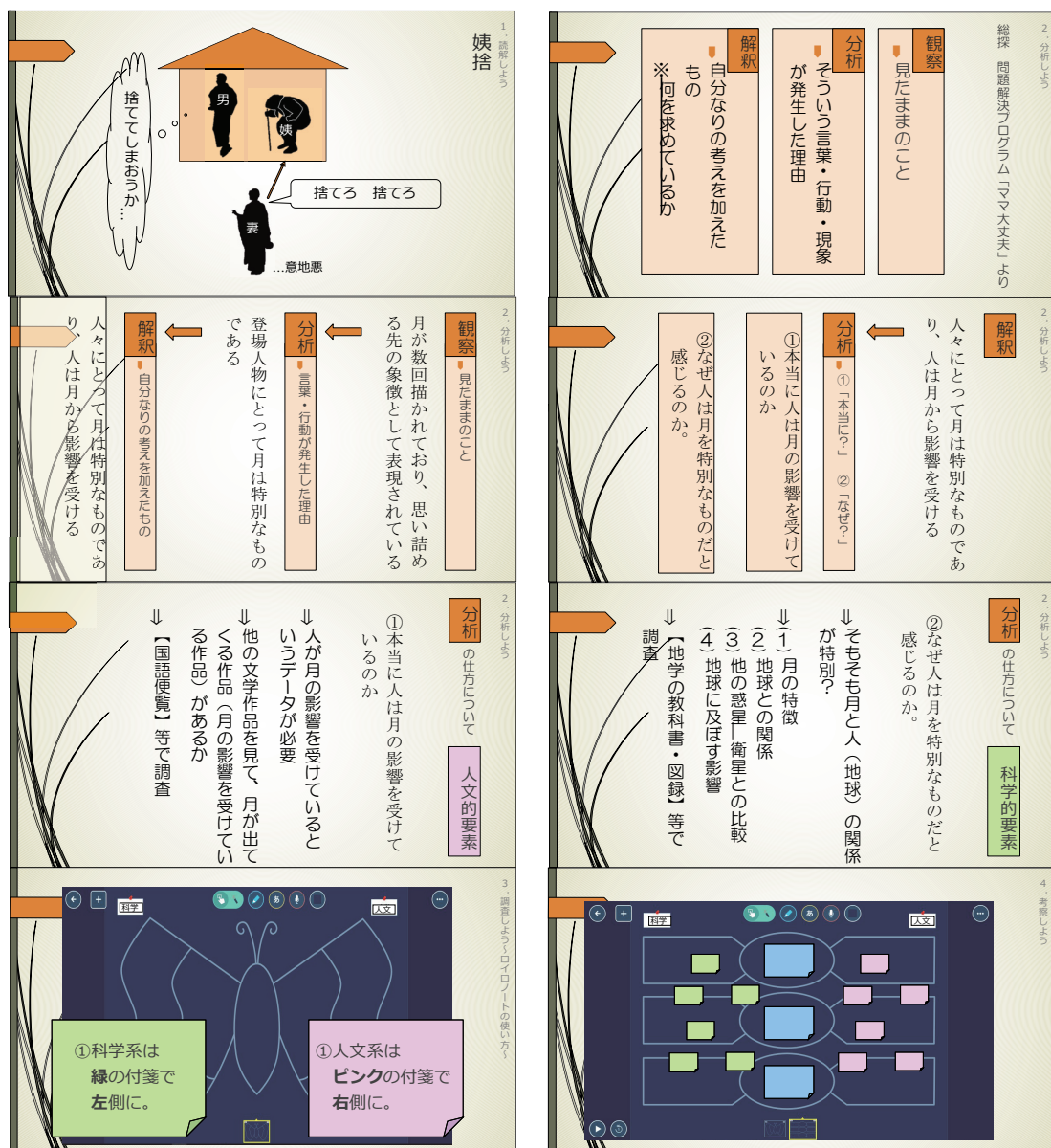


図 2. 授業で活用した教材と資料 (1)

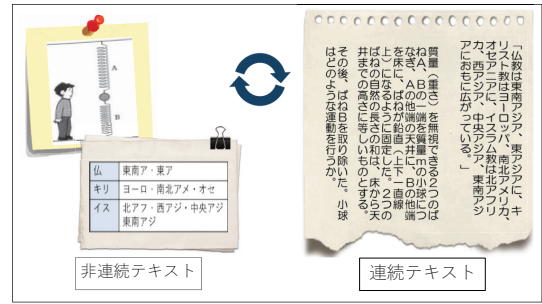
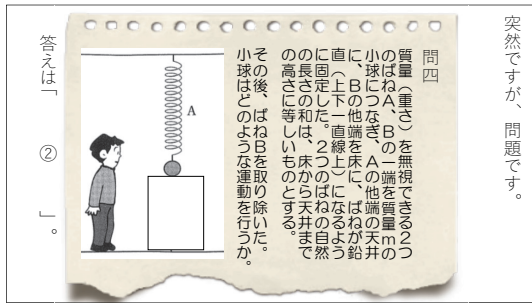
## ② 「教科書読解力」を高める

「自然科学分野の評論文を適切に読み取り、科学的な見方・考え方からその妥当性を検証し、自身の考えをわかりやすく表現できる」ことを目標とした授業を6時間の単元構成で実施した(図3)。近年の理科の大学入試問題は、問題文が長文化しており、生徒がその問題文を正確に読み解くことができずに計算式に変換することを苦手とする場面が多々遭遇するようになった。理科の問題文を読み解く際にも、現代文の授業で意識して読解を行う「同趣旨」「因果」「対比」の構造を踏まえれば、その問題文読解の正確さも向上するのではないかと考えた。このことを「教科書読解力」と題した。また、国語の大学入試問題等にも変化が見られる。これまでの評論文のみな

らず、実用的な文章の利用が叫ばれていたり、非連続テキストの読み取りも必要となってきた。教科書に採録されている文章にも数値が多数用いられている場合もあり、それを整理して読解することに苦戦する生徒もいる。そこで、前述の目標を設定し、連続テキストの非連続テキスト化、非連続テキストの連続テキスト化を行う演習を2回行い、それを踏まえて環境分野の大学入試問題（連続テキスト・非連続テキスト）を自力で読解した上で、その内容に関する意見文を書くという授業を実施した。

授業デザイン（授業略案）	
★ 単元目標	
自然科学分野の評論文を適切に読み取り、科学的な見方・考え方からその妥当性を検証し、自身の考えをわかりやすく表現できる。	
各時間の目標と授業展開および教材	
1	<p><b>目 標</b> 数値やデータの記述が多く、同等・因果の関係が複雑な文章について、その数値の意味や因果を理解しその関係を図式化できる。 図示された表やグラフについて、その意味について文章化して説明できる。</p> <p><b>展 開</b> 1 クイズ形式の問題を解き、情報整理と因果、主述のかけり方を把握することの重要性を確認する。 2 文章の図式化・図や表の文章化をする。 ①課題Ⅰの連続テキストと非連続テキストをペアにそれぞれ配布 ②連続テキストの非連続テキスト化・非連続テキストの連続テキスト化を行う ③相互確認 ④授業者より補足説明 ⑤課題Ⅱについて、①～④の手順で担当を変えて行う。</p> <p><b>教 材</b> Ⅰ「〇のない大人 ×だらけの子ども」 Ⅱ「カガク力を強くする」(本村有希子、岩波ジュニア新書)</p>
2	<p><b>目 標</b> 数値やデータの記述が多く、同等・因果の関係が複雑な文章について、その数値の意味や因果を理解しその関係を図式化できる。 図示された表やグラフについて、その意味について文章化して説明できる。</p> <p><b>展 開</b> 1 前回記入した PF をふりかえる。 2 文章の図式化・図や表の文章化をする。(課題Ⅲ・Ⅳ)</p> <p><b>教 材</b> 鳥取環境大学環境学部 令和3年度学校推薦型選抜Ⅰ 小論文(バイオマスプラスチック) 鹿兒島大学工学部 令和3年度学校推薦型選抜 小論文(温室効果ガス)</p>
3	<p><b>目 標</b> 連続テキストと非連続テキストをそれぞれ読解し、因果関係を的確に把握して共通点と相違点を整理する。</p> <p><b>展 開</b> 1 前回までに記入した PF をふりかえる。 2 情報整理と因果の重要性・連続テキストの非連続テキスト化と非連続テキストの連続テキスト化の手法を確認する。 3 本時の活動内容の流れを確認する。 4 課題文を読解する(課題Ⅴ・Ⅵ)</p> <p><b>教 材</b> 鳥取環境大学環境学部 令和2年度学校推薦型選抜Ⅰ 小論文(ヒートアイランド現象) 改訂 地学基礎(第一学習社)(地球温暖化に関する図)</p>
4	<p><b>目 標</b> 連続テキストと非連続テキストをそれぞれ読解して整理した共通点と相違点の情報を基に、意見文を作成する。</p> <p><b>授 業 展 開</b> 2 前時に作成した表の発表をペアで行う。 ・課題Ⅴ・Ⅵのどの部分(要素)からどのように読解したのかを説明する。 ・相手の説明内容を聞き、必要であれば、自分の表に加筆修正する。 3 意見文を作成する。 作成する意見文 地球温暖化とヒートアイランド現象の両方の問題を解決するために有効な策は何だと思うか。 4 4人組で意見文を相互評価する。 5 OPPを用いて、自己評価する。 6 活動をふりかえる。(探究活動へのマインドセット・教員からの説明)</p>

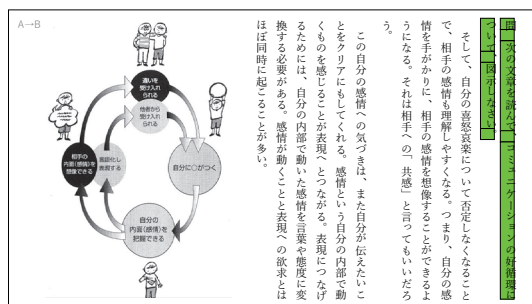
図3. 読解力育成に関わる6時間の授業デザイン



評価【ルーブリック】

5	4	3	2	1	活動内容
					連続テキスト・非連続テキストについて因果関係を適切に読み取りその書外にある背景にも目を向け、科学的な見方・考え方から課題解決の方策を提案することができる。
					連続テキスト・非連続テキストを適切に読み取り、その書外にある背景にも目を向け、科学的な見方・考え方から課題解決の方策を提案できているが、科学的な根拠が適切でない。
					連続テキスト・非連続テキストを適切に読み取り、その書外にある背景にも目を向け、科学的な見方・考え方から課題解決の方策を提案できているが、科学的な見方・考え方から課題解決の方策を提案できていない。
					連続テキスト・非連続テキストを適切に読み取り、その書外にある背景にも目を向け、科学的な見方・考え方から課題解決の方策を提案できているが、科学的な見方・考え方から課題解決の方策を提案できていない。
					連続テキスト・非連続テキストは読み取れているが、非連続テキストを適切には読み取りとれていない。
					もしくは、非連続テキストは読み取れているが、非連続テキストを適切には読み取りとれていない。

4	3	2	1	活動内容
				連続テキスト・非連続テキストの因果関係を適切に読み取り、科学的な見方・考え方から課題解決の方策を提案することができる。
				連続テキスト・非連続テキストを適切に読み取り、科学的な見方・考え方から課題解決の方策を提案できているが、科学的な見方・考え方から課題解決の方策を提案できていない。
				連続テキスト・非連続テキストを適切に読み取り、科学的な見方・考え方から課題解決の方策を提案できているが、科学的な見方・考え方から課題解決の方策を提案できていない。
				連続テキスト・非連続テキストは読み取れているが、非連続テキストを適切には読み取りとれていない。
				もしくは、非連続テキストは読み取れているが、非連続テキストを適切には読み取りとれていない。



課題2

問1

次の表およびグラフで読み取れることについて、わかりやすく説明しなさい。

表1 日本の主要国別のエネルギー消費量 (単位:10億kWh)

国	2005年度	2011年度	2012年度	2013年度
アメリカ	100.0	100.0	100.0	100.0
中国	35.0	65.0	75.0	80.0
日本	13.5	12.0	11.0	10.5
インド	3.0	5.0	6.0	7.0
ロシア	14.5	13.5	13.0	12.5
EU(欧州連合)	40.0	40.0	40.0	40.0
世界平均	18.0	18.0	18.0	18.0

グラフ: 2005年度と2013年度のエネルギー消費量の推移

自分の感情を表現する

この自分の感情への気づきは、また自分が伝えたいことをクリアにもしてくる。感情という自分の内部で動くものを表現することが表れ、表現につなげるためには、自分の内部で動いた感情を言葉や態度に変換する必要がある。感情が動くことと表現への欲求とはほぼ同時に起こることが多い。

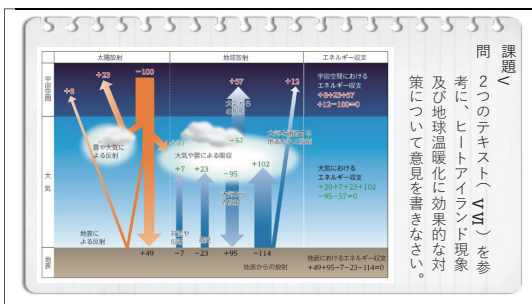
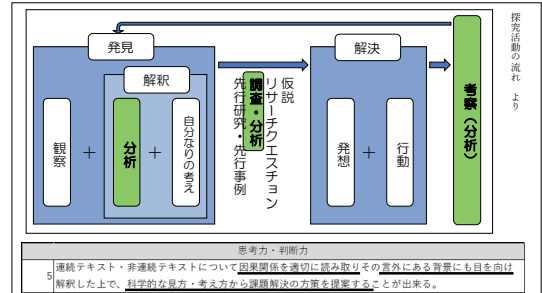


図4. 授業で活用した教材と資料(2)

### ③「批判的思考力」を高める

全7時間の単元構成として、批判的思考を高めるための授業を実践した(図5)。まずは、批判的思考の基礎となる「隠れた前提」を見つけるワークを実施した。その他にも1年次に触れておくべき「帰納法」や「演繹法」のワークを実施し、推論の方法を押さえた。その後、「技術が道徳を代行するとき」という教材を用いて、科学技術が人間の道徳心を肩代わりし、人間は道徳心を持つ必要が無くなるのではないかということについて批判的に思考することを目標とした。パフォーマンス評価としてはディベートの実施と、600字の意見文を作成することで、批判的思考の向上を図った。

授業デザイン (授業略案)	
★ 単元目標	
自然科学分野の評論文を適切に読み取り、科学的な見方・考え方からその妥当性を検証し、批判的に考察する活動を通して自己の考えを表現する。	
各時間の目標と授業展開および教材	
1	<p>目 隠れた前提を見つけ、その妥当性を検証する。</p> <p>標 批判的思考力について理解する。</p> <p>展 1 批判的思考力とは何かを知る。 ①隠れた前提を理解する。 ②隠れた前提を見つける。 ③隠れた前提を否定する。 ④ワーク。(活動後、ロイロノートにてワークシートを提出) ※ 批判的≠否定的 に留意する。</p> <p>開 2 「技術が道徳を代行する」とはどういうことかについて考えを持つ。 ①「技術が道徳を代行するとき」の一部を読解する。【個人】 ②「技術が道徳を代行する」とはどういうことかを、例を挙げて考える。【個人】 ③ 本当に「技術が道徳を代行する」かを考える(隠れた前提)。【グループ】</p> <p>3 「技術は道徳を代行している」という意見に対する意見文を書く。</p>
2	<p>目 ディベートの手法を理解する。</p> <p>標 ディベートのテーマを正しく分析し、自分の立場の意見を論理的に述べる。</p> <p>展 1 ディベートの目的と方法を確認する。(帰納法・演繹法について)</p> <p>開 2 ミニディベートを行う。 [テーマ]「校則は必要である」</p>
3	<p>目 「技術が道徳を代行する」ことについて批判的に検証し、論理的に説明できている。</p>
4	<p>標 自分の立場の主張の妥当性を高めるために、構造化して主張できる。</p> <p>展 1 ディベートの流れ・方法を確認する。</p> <p>開 2 ディベートの準備を行う。</p>
5	<p>目 「技術が道徳を代行する」ことについて批判的に検証し、論理的に説明できている。</p>
6	<p>標 自分の立場の主張の妥当性を高めるために、構造化して主張できる。</p> <p>展 1 ディベートマッチを行う。</p> <p>開 [立論3分] → [作戦タイム3分] → [質疑応答2分] → [反論3分] → [最終弁論3分]</p>
7	<p>目 隠れた前提を見つけ、その妥当性を検証する。</p> <p>標 批判的思考力について理解する。</p> <p>展 1 意見文を書く [テーマ] 技術は道徳を代行することについてあなたはどのように思いますか。</p> <p>開 2 ふりかえりを行う。 3 活動をふりかえる。(探究活動へのマインドセット・教員からの説明)</p>

図5. 批判的思考の育成に関わる7時間の授業デザイン

1. 批判的に思考力とは？ 批判的思考力の向上

地学の授業に下村が現れない！  
峯先生に、下村の居場所を聞いてみよう。

「峯先生なら下村の行動を把握しているはず」=隠れた前提

『本当にそう？』

- ・席がかなり離れているけど...
- ・峯先生、この間下村の愚痴言ってたし..
- ・いつも一緒にいて仲良さそうだよな。

これが「批判的に思考する」ということ

峯先生に下村の居場所を聞いても、居場所はわからないかも。

1. 批判的に思考力とは？ 批判的思考力の向上

地学の授業に下村が現れない！

「峯先生なら下村の行動を把握しているはず」  
=隠れた前提

『本当にそう？』 『その前提、違うよね』

- ・席がかなり離れているけど..
- ・峯先生、この間下村の愚痴言ってたし..
- ・いつも一緒にいて仲良さそうだよな。
- ・峯先生に下村の居場所を聞く意味はないよ。
- ・峯先生が下村の行動を把握しているわけがないよ。

批判的な思考 ~~否定的な思考~~

1. 批判的に思考力とは？ 批判的思考力の向上

隠れた前提を

- ① 見つける
- ② 疑う
- ③ 分析する

1. 推論の手法を学ぼう 批判的思考力の向上

掃納法

具体例（事実や事例）を抽象化・一般化する手法

- ・複数の具体的事実から同一の傾向を抽出し、結論に持っていく。
- ・具体例が複数あり、かつ様々な視点（分野、立場など）であれば情報に偏りが無い。
- ⇒具体例が同様の視点であれば「偏った情報」となる可能性がある。

2. ディベートの方法を学ぼう 批判的思考力の向上

三角ロジック

主張  
言いたいこと、結論

データ (客観的事実 事例、統計、評論)      理由付 (判断の基準 (因果関係の法則))

根拠

1. ディベートマッチの準備をしよう 批判的思考力の向上

テーマ

技術は道徳を代行する

↓

定義を確認しよう。

技術とは、( )

道徳とは、( )

代行するとは、( )

3. 「技術が道徳を代行するときについて考えよう 批判的思考力の向上

本当に「技術が道徳を代行する」のかを考えよう。

\* 「Vチャート」を使って、付箋を【代行する】【どちらでもない・わからない】【代行しない】の3つに仕分けよう。

1. 推論の手法を学ぼう 批判的思考力の向上

演繹法

事実や根拠を積み重ね、結論を導き出す手法

- ・重ねるのは「誰もが知っている事実」「一般論」などの普遍的事実であることが多い。
- ・普遍的事実を重ねるので、結論は強い説得力をもつ。
- ⇒重ねる事実へ偏った主観が混じると、論理が破綻する可能性がある。

2. ディベートの方法を学ぼう 批判的思考力の向上

<例>

<p>国語の教科書は縦書きのまま！</p> <p>かな文字は縦書きでできた文字。日本文化を学ぶことも国語の大事な要素。</p>	<p>国語の教科書も横に統一すべき。</p> <p>英語が共通語であるなら文字の向きも合わせるべき。</p>
<p>どうして全て統一する必要があるのか？</p> <p>外国人が来たときに困らないように。</p>	<p>いつから縦書きか？</p> <p>文化を学ぶ教科だから縦書きで行くべき</p>
<p>今まで長い年月をかけて作られた文化を壊してでもするべきことなのか。</p> <p>多様性を認めようことに反している。</p>	<p>文化は時代によって変化してもよいのではないか。外国人の多くと一緒に新たな文化を作っていくべき。</p>
<p>日本人が日本人であるために、古来の文化を尊重する精神は必要である。</p> <p>「不易と流行」の中の「不易」にあたる。</p>	<p>古くからの文化を継承することは必要であるが、「不易と流行」という言葉があるように、在留外国人が増えている現代においては、変わっていくべき。</p>

3. ミニディベートをしてみよう 批判的思考力の向上

・4人班を作り、肯定側2/否定側2に分かれる

ミニディベート テーマ

校則は必要である。

定義

- ・校則とは、学校全体で定められている規則で、守らなかった場合は何らかの指導が行われるものを指す
- ・学校とは、佐世保西高校を指す。

1. ディベートマッチの準備をしよう 批判的思考力の向上

役割を決めよう。

リーダー

発表者

立論      質問      応答      反論      最終弁論

記録1      記録2      タイム・バー      リサーチ

図6. 授業で活用した教材と資料 (3)






## 5. 評価方法

<p>ア) 生徒のルーブリックによる自己評価</p> <p>イ) ポートフォリオ相互コメントによる生徒間評価</p> <p>ウ) 生徒のワークシートの分析</p>
---

### ア) 生徒のルーブリックによる自己評価

3 単元（全 15 時間）の授業において、ルーブリックによる自己評価を行った。「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「学びに向かう力」について、それぞれの基準を設け生徒が自分自身で判断して点数をつけ、その理由を文章で表現することとした。それに加え、「GOOD」「BAD」「NEXT」で自分の現状と今後の課題を記すことで自己分析を促した。

#### 【生徒 A が入力した自己評価（「②教科書読解力を高める」より）】

<p><b>GOOD</b> 評論を読んでいく上で重要なことは、問題旨、対比、因果の3つの関係性を意識することだと改めて学ぶことができた。実際に、本文の内容を整理して図にまとめる際、この3つを意識しながら本文を読んでいくと、筆者の主張やキーワードとなるポイントなどを捉えやすくなり、ポイントを固にまとめることができたと思う。</p> <p><b>BAD</b> 一番最初の、非連続テキストを連続テキストに書き換えるとき、循環のスタート地点をうまく捉えられておらず、スラスラと書き換えることができなかった。</p> <p><b>NEXT</b> 問題旨、対比、因果の3つの3つの関係性を意識しながら本文を読み、筆者の主張やキーワードとなるポイントを正しく理解できるようになりたい。これらをうまく理解することで、図式化やその逆のことができると思う。読解力を高められるように、頑張りたい。 思考力：2 表現力：3</p>  <p style="text-align: center;">1 時間目</p>	<p><b>「GOOD」</b> 自分の要約の構成…筆者の主張である最初と最後のテーマと結論をしっかりとおさえられていて、中に具体例を入れることができていた</p> <p><b>「BAD」</b> 【表とグラフの読み取り】 ・グラフの軸を正しくつかめていなかった ・特定のもの（今回の場合は二酸化炭素）の数値の高さを他のものとの比較（何倍か等）を踏まえて表すことができていなかった ・非連続テキストを文章化するとき、テーマと結論をうまくつかめていなかった</p> <p><b>「NEXT」</b> 【今日学んだ大切なこと】 他との比較をすること、教師をいれること、テーマと結論をはっきり表すこと、表とグラフとの関係性（関連性）を認識すること、評論では一番最初の文に必ず録を引いて、その後すぐに一番最後の結論を読むことなどが大切！ ＜今後＞非連続テキストを文章化することが難しいので、今日学んだことをしっかりと押さえ、スラスラとかけるようになりたい 知識・技能 3</p>  <p style="text-align: center;">2 時間目</p>
<p><b>GOOD</b> 本文を読む際、MER法を意識して読むことができた。意見文では、自分なりに対策を考え、自分の考えをしっかりと表せたと思う。</p> <p><b>BAD</b> 意見文を書く際、SK2法（数値を入れる）を用いることができなかった。また、「最初の主張は一般論で、その後に理由、具体例、最後に結論」という構成になっていなかった。</p> <p><b>NEXT</b> 【意見文を書く上で大切なこと】 「最初の主張は一般論（例と about なこと）を言い、その後理由、そして具体例、最後に結論」という構成にすること、文末表現は「です・ます」ではなく、「だ・である」の方を用いること、「私は」で書き始めないこと、「と思う・と考える」は書かないこと（自分の主張だから）、MER法、SK2法を用いること</p> <p>いつも、自分で原簿をする際、時間内に書き終われなかったのだが、今日は時間内にすべて書き終えることができたので、自分としてはすごく良かったと思う。</p> <p>表現力 4 学びに向かう力 4 思考力 4</p>  <p style="text-align: center;">4 時間目</p>	<p><b>本文</b></p> <p>今回、連続テキストを図式化したり、非連続テキストを文章化したりする活動を4時間行い、とても中身が濃く、深く、たくさん大切なことを学ぶことができました。4時間目に先生が「問題を理解して、自分でわかりやすいように図式化することは能力の一つであり、簡単なことではない。しかし、例えば問題を問題旨、対比、因果を意識して読むといったちょっとした意識でだいぶ結果が変わってくる。このような日々の意識づけや訓練をすることで、能力というものは伸ばすことができる。」とおっしゃいました。私が今回学んだ、本文の読み方や文章の図式化、表・グラフの文章化をするうえでのポイント、記述の構成などのたくさん重要なことを日頃から意識することで、最初は難しいと感じていたことでも、少しずつできるようになっていくとわかったので、これからそれを実践できるようにしたいと思います。国語の読解力は、勉強においてはもちろん全教科につながっており、日常生活や仕事においてもつながっているところがあると思うので、なおさら頑張らないといけないなと思いました。</p> <p>また、先生は「私たちの生活すべてが探求活動なのである」ともおっしゃっていました。これからは、もっと、問題発見、背景・原因をふまえた上での分析、そして対策を考えるというプロセスを大切にして、自分をよりよく高めたり、他者との協力を大切にしたりすることが大事だとわかりました。</p> <p>今回の4時間で学んだことは決して無駄にせず、これからの自分の成長につながってほしいです。</p> <p style="text-align: center;">4 時間目</p>

### イ) ポートフォリオ相互コメントによる生徒間評価

ア)で生徒が記入したポートフォリオについて、「相互コメント」機能を利用し、隣席の生徒がペアワーク等の状況を踏まえてコメントするという形を取り入れた。現状分析と、今後すべきことを相互に指摘し合った。

## 【生徒 B に対する生徒 C の評価（「②教科書読解力を高める」より）】

相互評価
ピックアップ
先生コメント



高校1年生5組30番  
2021/12/10 21:11

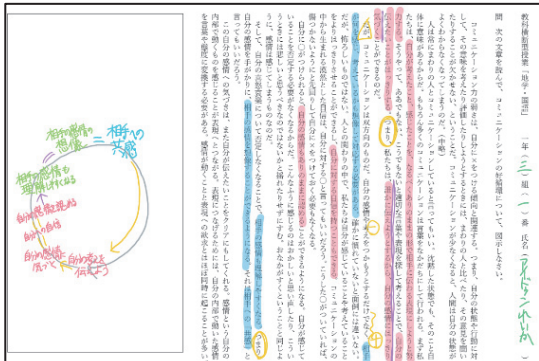
君今日はお疲れ様でしたm(\_ \_)m  
とても有意義な時間を過ごせたことでしょう。  
今日の活動では図表だけから情報を読み取りそこから文章にしていってという学習でしたね！  
反省でも書いている通り具体例を書くことができているGoodでしたね！  
また、まとめをかけてなかったことが少し残念でしたね(´▽｀)  
そして次からはNEXTで書いている通り文章の構造を意識して書いていきましょう！そうすればより良い文章を書くことができ、  
くん自信の力もついていくことでしょう！  
今日はペアを組んで下さり誠にありがとうございました。こちらとても有意義な時間を過ごすことが出来ました(´^^`)(´^^`)  
これからもどうぞ夜露死苦(´ω`n` )ﾌﾞｯ

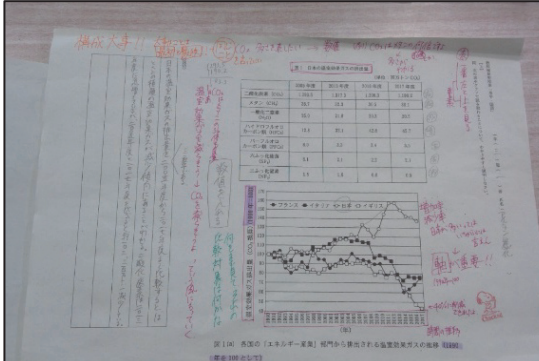
[見直しを依頼する](#)

### ウ) 生徒のワークシートの分析

3 単元における教科横断型授業の全てにおいて、100 字～600 字の記述文章の作成を促した。また、2 回目の単元では、連続テキストを読解したものを非連続テキスト化すること及びその反対である、非連続テキストを連続テキスト化する活動をワークシートを使って行った。その成果物について、理科及び国語の観点から到達度について分析を行った。

### 【生徒 A が提出したワークシート（「②教科書読解力を高める」より）】





## 6. 成果と課題

本実践では、国語・理科の知識技能を高めるとともに思考力・判断力・表現力、学びに向かう力の育成を目指して行ったが、生徒のポートフォリオから検証すると学びに向かう力からの育成については大きな効果があったと言える。また、思考力・判断力・表現力についても1つの教科単独では高めることに限りがあったものを複数組み合わせることでより深い理解につながったとも考えられる。しかし、思考力・判断力・表現力の向上の度合いについては、長期的な視点と評価のあり方等の検討が必要であり、今後の課題となっている。さらに、教科横断的授業を高等学校で実践するにあたってのマインドセットや持ち時間調整などの課題も多いことが挙げられ、工夫が必要である。

## 7. 引用・参考文献

文部科学省(2017),『高等学校学習指導要領解説 総則編』